## 【漁況】
## [マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は，昭和40年の53万トンをピークに減少傾向となり，昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ，平成8年には33万トンに増加し，平成10年までは30万トン台で推移しましたが，再び減少傾向に転じ，令和元年は9万7千トンとなりました。

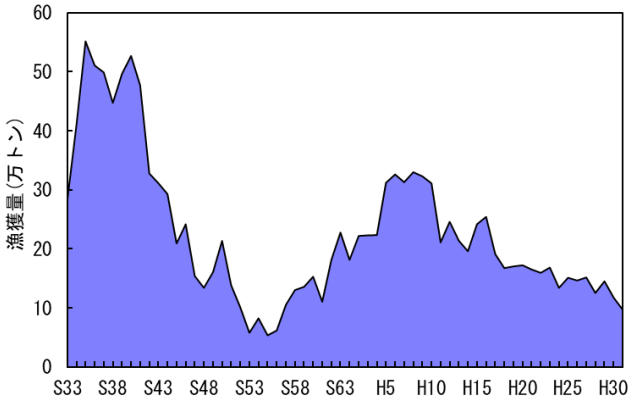


図　全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の令和３（2021）年４～６月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では，4 月に縄瀬でマアジ豆（1 歳魚：2020 年生まれ）主体に漁場が形成されました。

薩南海域では，4 月に立目崎沖でマアジ豆（1 歳魚：2020 年生まれ）主体に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では，期全体で 1,009 トンの水揚げで，前年の 1,117 %及び平年の 338 %でした。

3. 県内の令和３（2021）年７～９月期の見とおし

漁獲主体：マアジ小，豆（0～1 歳魚：2020～2021 年生まれ）

来 遊 量：前年を上回り，平年並

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

6 月からは漁獲の主体であった 1 歳魚に加え，0 歳魚もまき網で漁獲されるようになりました。

今期も引き続き 0～1 歳魚が漁獲の主体となることが予測され，5～6 月の漁模様から，前年を上回り，平年並となると考えられます。

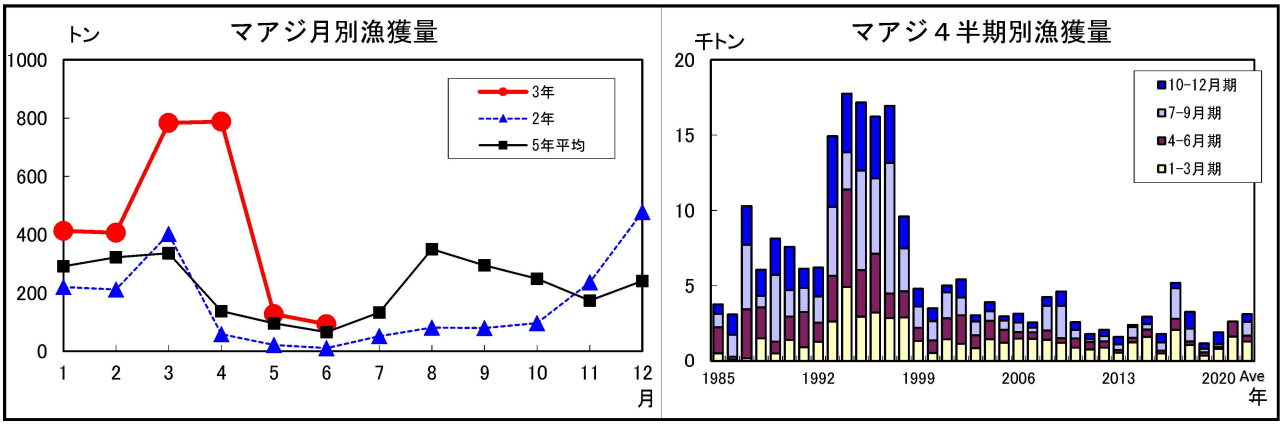


図 マアジまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和３（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

## ［サバ類］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は，昭和53年の160 万トンをピークに年々減少し，平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが，平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年に65万トンまで増加したあと減少傾向となりましたが，令和元年は45万トンとなりました。

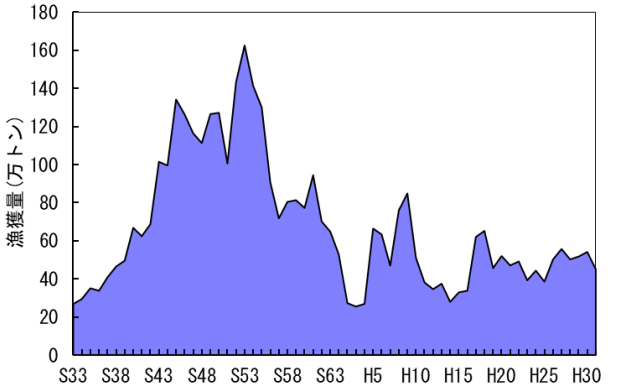


図　全国のサバ類漁獲量の推移

2. 県内の令和 3（2021）年 4 ～ 6 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域では，4 月に縄瀬でサバ類小（1 ～ 2 歳魚：2019 ～ 2020 年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では，期を通じて宇治，湯瀬でゴマサバ中小，中（3 ～ 5 歳魚：2016 ～ 2018 年生まれ）主体の漁場が形成されました。

4 港計のまき網では，期全体で 3,441 トンの水揚げで，前年の 48 %及び平年の 60 %でした。

3. 県内の令和 3（2021）年 7 ～ 9 月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中，中小（3 ～ 5 歳魚：2016 ～ 2018 年生まれ）

来 遊 量：前年を上回り，平年を下回る

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期 4 月まで漁獲の主体となっていたマサバ小が 5 月以降漁獲されなくなり，5 月以降漁獲の主体となったゴマサバ中小，中が漁獲の主体となると考えられます。直近の 6 月のゴマサバ中小，中の漁模様を考慮すると，サバ類の来遊量は前年を上回り，平年を下回ると考えられます。

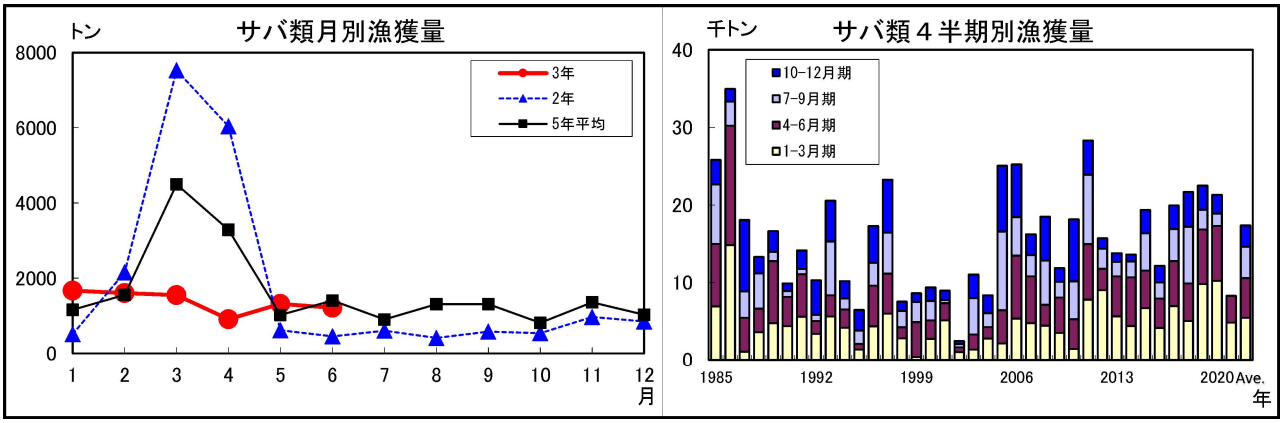


図 サバ類まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和 3（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

## ［マイワシ］

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は，昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後，昭和48年頃から増加の傾向が見られ，昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降，全国的に漁獲量は減少を続け，平成14から22年までは，10万トンを下回る低い水準で推移していていましたが，平成23年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、平成25年以降は20万トンを超える漁獲が続き，令和元年には56万トンとなりました。

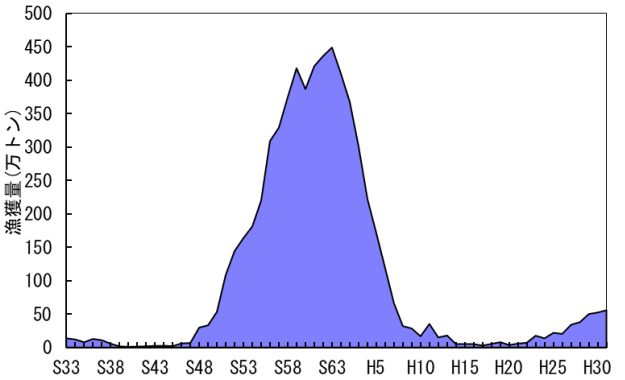


図　全国のマイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の令和３（2021）年４～６月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域のまき網では，４月に縄瀬，６月に天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では，４月に立目崎沖，５月に鷹島で漁場が形成されました。

４港計のまき網では，30 トンの水揚で前年の 24 %，平年の 13 %でした。

北薩海域の棒受網では，31 トンの水揚げで前年の 37 %，平年の 54 %でした。

### 3. 県内の令和３（2021）年７～９月期の見とおし

漁獲主体：小羽～中羽（0 歳魚：2021 年生まれ）

来 遊 量：前年を下回り，平年並

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる 0 歳魚（2021 年生まれ）は，6 月に棒受網で前年を下回るものの，平年並の漁獲があったことから（イワシ類参考資料参照），今期は前年を下回り，平年並と考えられます。

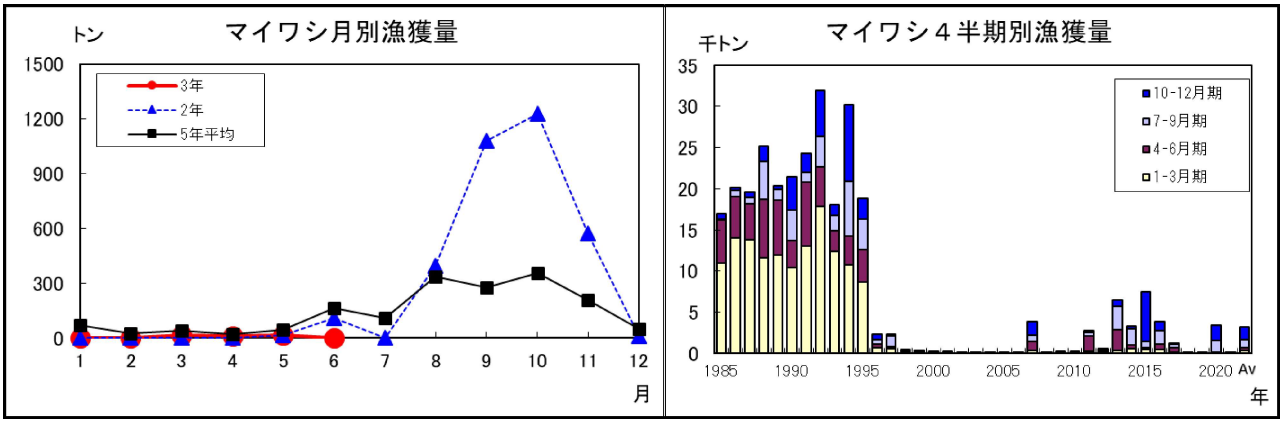


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和３（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

## [ウルメイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は，昭和30年代以降，増減を繰り返しながらも増加傾向を示し，平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後，減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ，平成28年は9万8千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となったが，令和元年は6万トンと大きく減少しました。

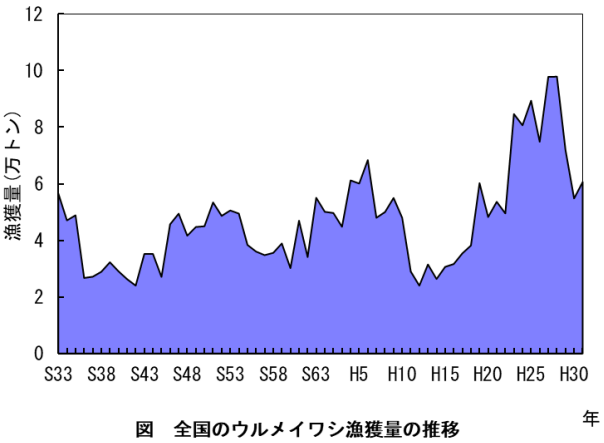


図　全国のウルメイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の令和 3（2021）年 4 ～ 6 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域のまき網では，甑島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では，4 月に立目崎沖，6 月に津倉で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では，中～大羽（1 歳魚：2020 年生まれ）主体に 304 トンの水揚げで，前年の 70 %，平年の 46 %でした。

北薩海域の棒受網では，91 トンの水揚げで，前年の 68 %，平年の 71 %でした。

### 3. 県内の令和 3（2021）年 7 ～ 9 月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽主体（0 歳魚：2021 年生まれ）

来 遊 量：前年並，平年を下回る

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる 0 歳魚（2021 年生まれ）は，6 月に棒受網で前年，平年並の漁獲があったものの，まき網，棒受網の漁獲動向から判断すると，前年並，平年を下回ると考えられます。

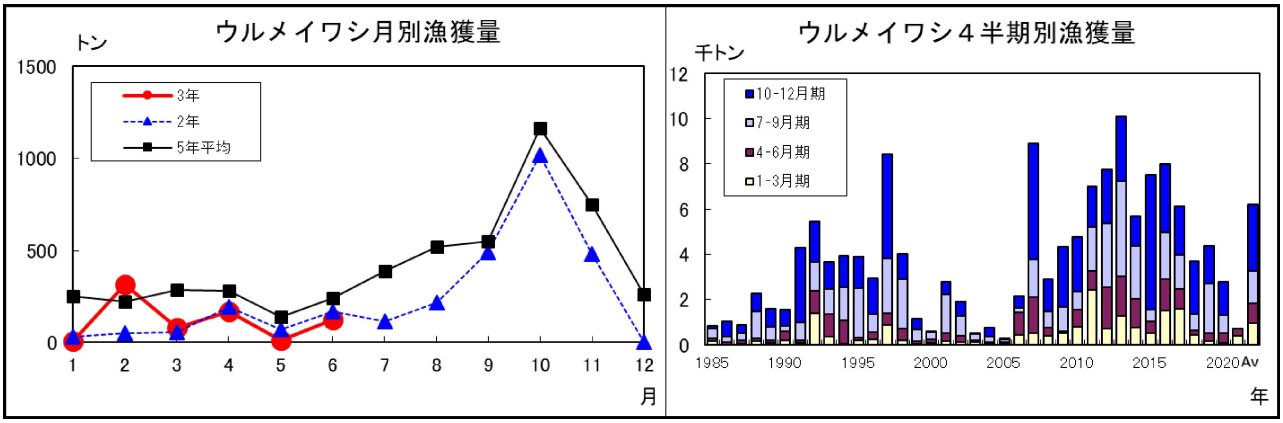


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和 3（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

## ［カタクチイワシ］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は，昭和48年まで30万トン台で変動していましたが，昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり，平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが，その後減少傾向に転じ，令和元年は13万トンとなりました。

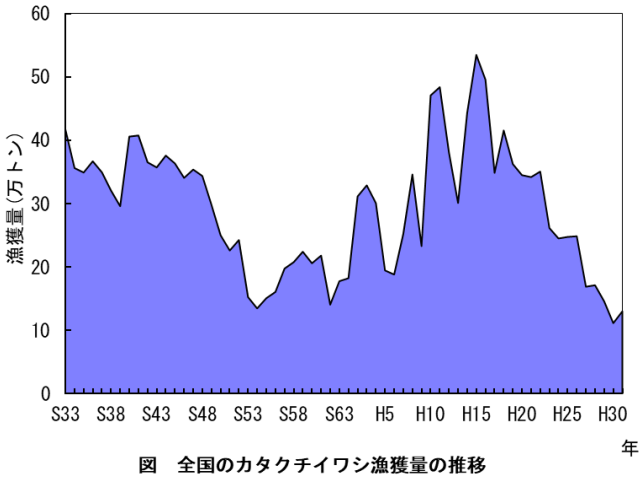


図　全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の令和３（2021）年４～６月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では，八代海で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では，漁場は形成されませんでした。

4 港計のまき網では，中～大羽（1 歳魚：2020 年生まれ）主体に 149 トンの水揚げで，前年の 22 %，平年の 12 %でした。

北薩海域の棒受網では，66 トンの水揚げで，前年の 49 %，平年の 25 %でした。

3. 県内の令和３（2021）年７～９月期の見とおし

漁獲主体：中羽（0 歳魚：2021 年生まれ）

来 遊 量：前年，平年を下回る

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる中羽（0 歳魚：2021 年生まれ）の 6 月の漁獲量は前年，平年を下回っており，過去 10 年の 6 月の漁獲量と 7 ～ 9 月の漁獲量には正の相関が見られることから，今期は前年，平年を下回ると考えられます。

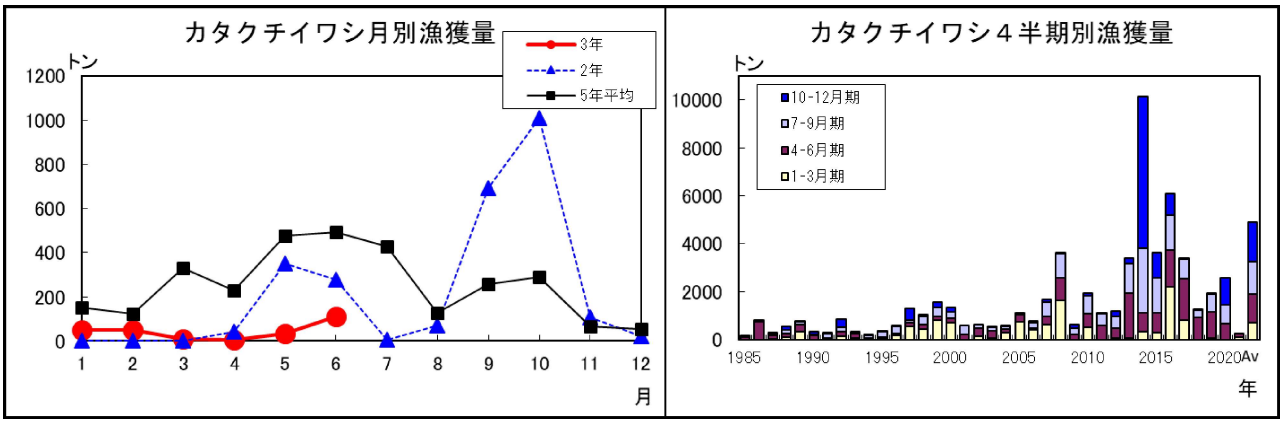


図　カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和３（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

## [イワシ類参考資料]

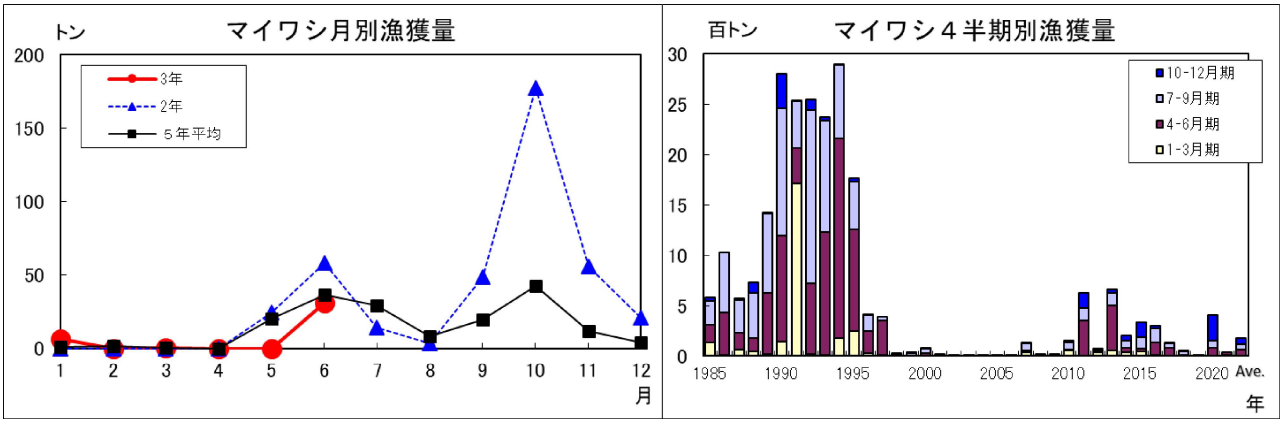


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

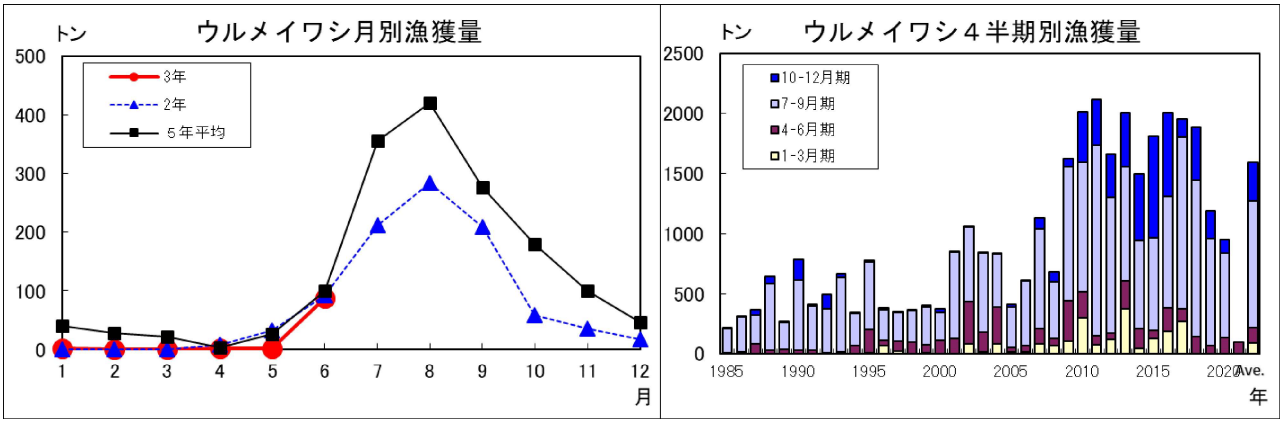


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

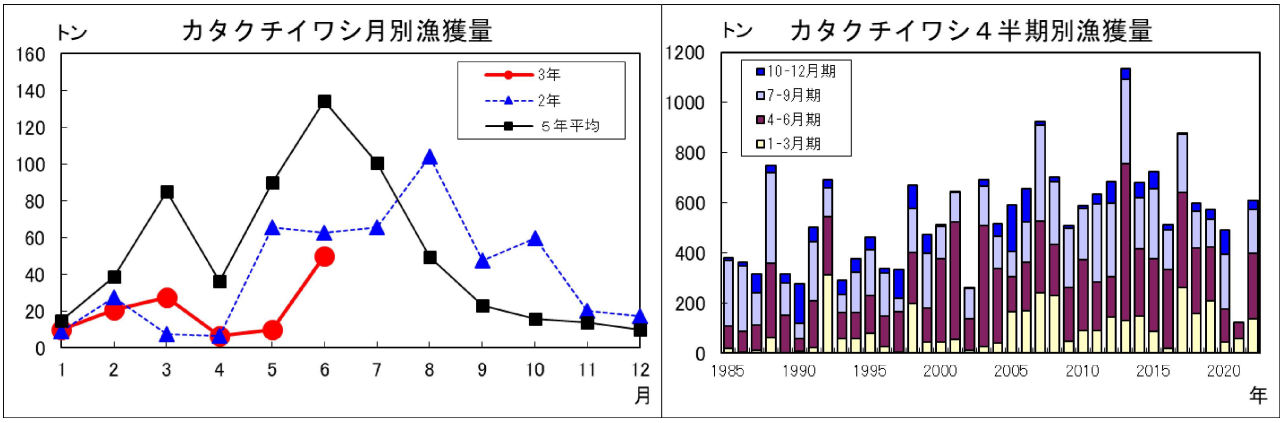


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去５年の平均値(AV)，令和３（2021）年６月23日までの水揚量を使用

## ［参考：漁況経過のみ記載］

〈ムロアジ類（ムロアジ，クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

県内の令和 3（2021）年 4 ～ 6 月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は，平成 2 年の 21,700 トンをピークに急減し，平成 6 年以降は，1,500 トンから 5,000 トンの間での推移しており，令和２年は 2,309 トンとなりました。

4 港計のまき網では，宇治でムロアジ，硫黄島，黒島でクサヤモロ小，中小主体の漁場が形成されました。期全体で 783 トンの水揚げで，前年の 160 %及び平年の 212 %でした。

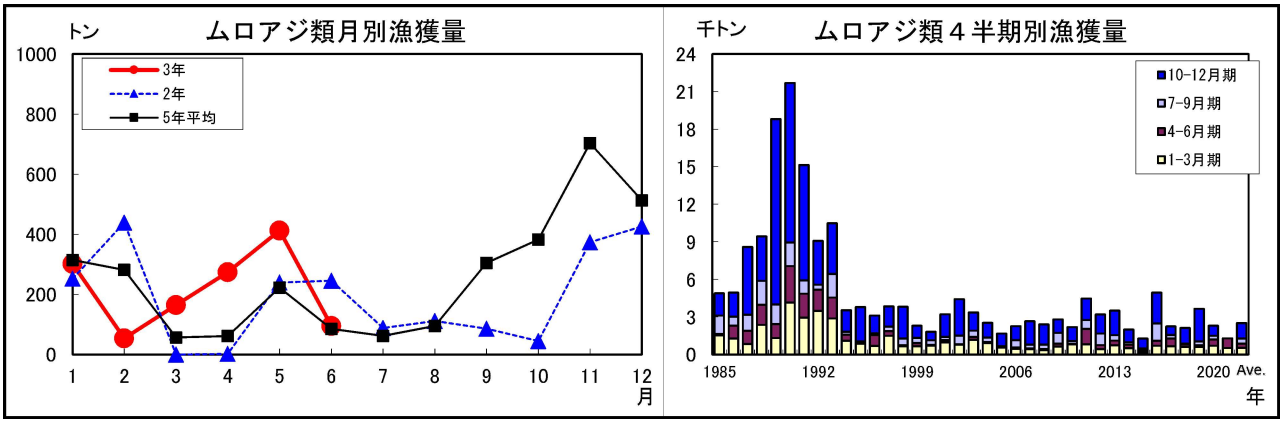


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和 3（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

県内の令和 3（2021）年 4 ～ 6 月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は，平成元年の 5,300 トンをピークに一旦減少し，平成 7 年に 4,400 トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成 20 年に一旦増加したあと再び減少傾向を示しましたが，令和 2 年は 1,214 トンとなりました。

4 港計のまき網では，主に屋久島周辺,臥蛇島，黒島でオアカムロ中小主体の漁場が形成されました。期全体で 111 トンの水揚げで，前年の 16 %及び平年の 22 %でした。

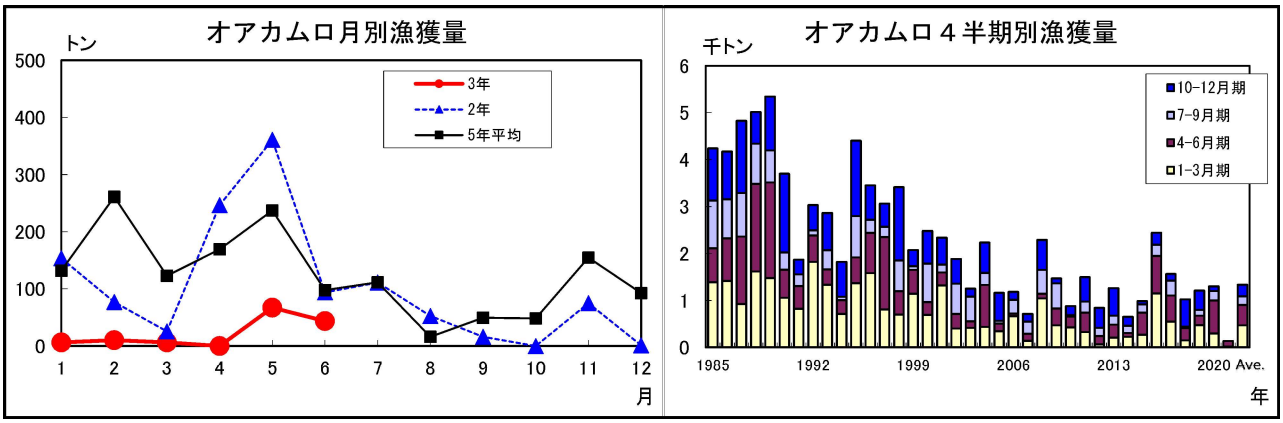


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和 3（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

県内の令和 3（2021）年 4 ～ 6 月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は，昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり，その後低調に推移し，平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが，平成 16 年以降は低調に推移し，令和 2 年は 448 トンとなりました。

4 港計のまき網では，八代海沖，東町沖でマルアジ中主体の漁場が形成されました。期全体で 11 トンの水揚げで，前年の 9 %及び平年の 15 %でした。

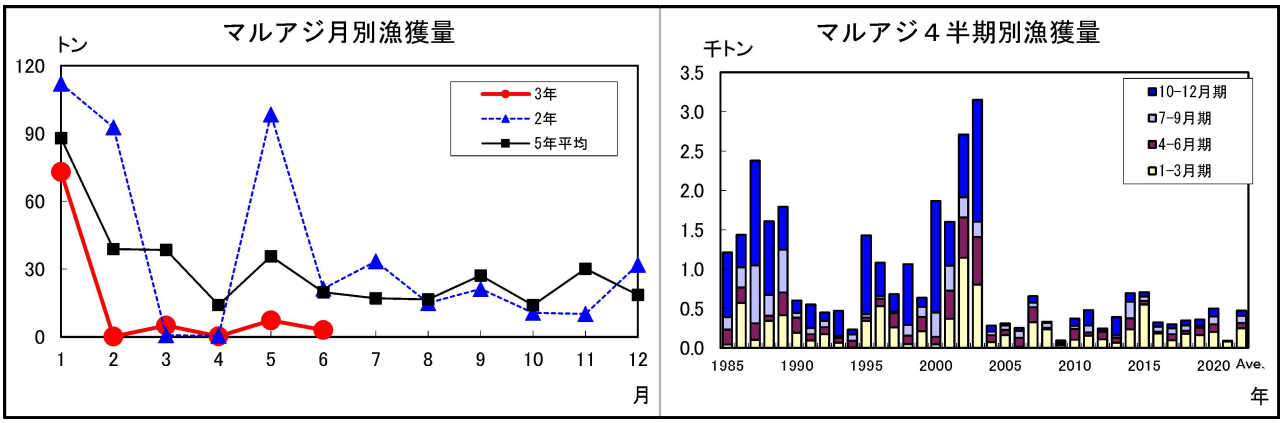


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)，令和 3（2021）年 6 月 23 日までの水揚量を使用